

市政ニュース

「中貝市長とふれあいトーク」市民グループと市長が楽しく語り

市民の皆さんが仲間と一緒に市長と気軽に語り合える「中貝市長とふれあいトーク」を開催しました。

参加者は、公募に申込みをした16のグループで、子育て真っ最中のお母さんグループ、地域を元気にしようとするグループなどさまざまでした。6月24日から7月13日の間に、6カ所の会場で、各グループが希望するテーマについて、約1時間、市長と意見交換を行いました。

昨年、市民の皆さんと市長との懇談会を3月から6月まで地区公民館単位の29会場で開催しました。今回は仲間だけ



▲出石総合支所でのトーク

で市長と話せる機会とあつて、和やかな雰囲気の中で話が弾みま



▲竹野総合支所でのトーク

この機会にとテーマ以外にまで話が発展したり、話し合っているうちに、視点の違いから新たな発見があったりしました。

市長も市民の皆さんの頑張りや将来への不安からの涙ながらの話に何度もうなづいていました。

また、「市長さん、意外とソフト」などの声も聞こえ、笑い声も響いていました。

市では、今後も、このような市民の皆さんと市長との話し合いの場を設定し、「対話と共感」の市政を推進します。

「名探偵コナン」城崎温泉・出石ミステリーツアー 参加者とくたくたイベント実施中

市では、新型インフルエンザの風評被害により販売が一時的に鈍化した「名探偵コナン」城崎温泉・出石ミステリーツアーの参加者の拡大と地域経済の活性化を図るため、7月1日から参加者先着1万人に「城崎・出石小判」をプレゼントしています。

小判は、城崎温泉街の旅館や商店、城崎マリンワールド、出石地域のそば店などで11月3日まで使用できる商品券（大人1,000円分、子ども500円分）になっています。このツアーは、行政、アニ

メ、J.R、観光業者などの異業種が共同して行う珍しい事業として、テレビで紹介されました。

参加者は各チェックポイントで「捜査の手がかり」と「行き先ヒント」を集めて謎解きにチャレンジします。正解は、ツアー実施期間終了後、「週刊少年サンデー」で発表されるほか、TVアニメでも「解答編」が放送される予定です。



▲「城崎・出石小判」

橋梁長寿命化修繕計画策定 橋を長持ちさせて、財政負担を軽減します

市が管理する規模の大きい道路橋（橋長15メートル以上）は219橋あります。

このうち、建設後50年以上を経過した老朽橋は、現時点では8橋ですが、20年後には92橋となり、急速に老朽化が進行するため、補修や架替え費の増大が予想されます。

そこで、市では、市道橋の維持管理を効率的・効果的・計画的に行い、将来的な財政

負担の低減と平準化を図るために「橋梁長寿命化修繕計画」を策定しました。県内の市では、神戸市に次ぐ2番目の計画策定となります。

本計画に基づき、主な部材の交換等の補修を適切な時期に実施する予防的な維持管理に転換することにより、橋梁の寿命は平均32年延命でき、今後100年間で158億円のコスト削減が見込めます。

主な市政の動き

- 〔6月〕
- 22日・新型インフルエンザ対策・中小企業融資制度および利子補給制度拡充
- 23日・現市役所本庁舎を新庁舎の一部として保存活用することを表明
- 24日・中貝市長とふれあいトーク（城崎総合支所）
- 29日・中貝市長とふれあいトーク（但東総合支所）
- 26日・副市長候補者公募説明会（東京会場）開催
- 27日・副市長候補者公募説明会（神戸会場）開催
- 29日・平成21年度豊岡市感謝状贈呈式開催
- 〔7月〕
- 1日・インフルエンザ風評被害対策・城崎温泉外湯入浴料半額割引（14日）
- 2日・中貝市長とふれあいトーク（市長室、出石総合支所）
- 3日・中貝市長とふれあいトーク（竹野総合支所）
- 5日・兵庫県知事選挙
- 13日・中貝市長とふれあいトーク（日高総合支所）
- 14日・豊岡市「くらしの便利帳」発刊式

豊岡市「くらしの便利帳」の発行

市政・生活情報を掲載した保存版冊子です

市では、市民の皆さんの利便性の向上を図るため、市民生活に必要な情報を掲載する豊岡市「くらしの便利帳」を作成しました。

「くらしの便利帳」の発行に当たっては、市の財政負担を伴わずに行政情報の発信ができるように、官民協働の事業手法を採用しました。この手法では、市が掲載原稿を作成し、業者（株）サイネック

（ス）が冊子の編集から印刷製本、配布までを担当します。

また、市では、「くらしの便利帳」に、市内の企業・団体などの広告（有料）を掲載することにより、地域経済の活性化を図っています。

「くらしの便利帳」は、現在、業者が各世帯への配布を行っています。

なお、8月中旬を過ぎても、自宅に届かない場合は、秘書

広報課広報・交流係に連絡をお願いします。



▲くらしの便利帳発刊式での（株）サイネックス代表取締役社長の村田吉優さんと中貝市長

環境を考える。韓国・南ソウル大学の学生たちが来訪

環境学習と竹野の海岸清掃を行いました

6月25日、韓国・南ソウル大学生など26人の研修団が、竹野町切浜のはさかり岩東岸で清掃活動を行いました。

この取組みは、「世界の平和と環境を考える研修」として同大学が鳥取大学と連携して実施しており、今年で4回目となります。今回は、福井

県小浜市から鳥取砂丘までの海岸沿いを自転車移動しながら清掃活動を行い、日本海岸に漂着した海洋ごみを通じて環境問題を考えるとともに、訪問先の環境施策を学習しま

した。

切浜の清掃には、地元の方を含む約70人が参加し、流木、ロープ、ブイ、ドラム缶、医療ごみやハンゲル語表記のペットボトルなど、約4トンのごみを回収しました。

研修団は、前日の24日には県立コウノトリの郷公園を訪れ、コウノトリ野生復帰の取り組みを学び、コウノトリの郷営農組合の稲葉哲郎さんから、環境創造型農業の説明を受けました。

その後、北但建築連合会の

指導により、郷公園周辺の水路に設置されている生きものの退避スペースの修繕作業を行いました。

来訪した大学生のシン・ジョン・ホンさんは「今年

は体験活動もでき、より多くのことを学ぶことができ、よかったです」と話していました。



▲地元の方と交流しながら清掃

中貝市長の徒然日記 ⑳

孤立と孤独とホテルの話

「ホテルを見においで。以前は、宝石箱を散らかしたみたいにお話があった。それをあの台風が奪っていった。でも頑張つて、まだ元通りではないけれど、増えてきたよ」友人に誘われて出石の奥山に行つてきました。

ホテルの前に、まずは酒盛りをしなければなりません。地元の人たちも加わつて、タヌキやキツネも驚けとばかりに、にぎやかにやっています。

り改善されてきました。しかし、少なくとも今年の台風時期には間に合わない区があります。当座の対策として衛星携帯電話を配備することにしました。これなら、電話線が切れても、人工衛星を介して通話が可能です。

平成16年の台風23号で、奥山では裏山が崩れて潰れた家の中で1人が命を失つておられます。

「真つ暗だった。助けを求めようにも、電話は通じなかった。歩いて山道を下りていった。道路は壊れ、木が覆いかぶさり、恐ろしい緊張の中をようやく下りた。たどりつた。でも、間に合わなかった」その方は、涙をぼろぼろ流しながら当時の話をされました。

うそう、今度の補正で、携帯電話不通区に衛星携帯電話を配備します。区に1台ですが、がしました。

区長さんにお預けします。いざというときには、それで対策本部や消防や警察に電話してください。

市内には、携帯が通じない区が10区あります。合併時は43区でしたから、事態はかな



心の灯に